

加々美貴代さん(42)

標高約1500以上に広がる上田市の菅平高原をフィールドに、市内の小学生に自然の中で遊ぶコツを教え、間伐などを通じた森づくり活動を展開する。県外からの林間学校も積極的に受け入れ、多様な学習プログラムを通じて森の大切さや重要性を訴え、年間約2万人が菅平高原に足を運ぶ。今年度の「信州エコ大賞」(一般社団法人県環境保全協会主催)を受賞した。

「私たちの活動は表に出ないことが多いが、受賞を通じて多くの企業や県民に知ってもらえるきっかけになった」と喜ぶ。受賞式などで知り合った企業とのつながりを強化したいと意欲を燃やす。

旧明科町(現安曇野市)出身。子供の頃から自然が大好きで、父

NPOやまぼうし自然学校代表理事

親と家庭菜園で野菜を育て、学校から帰宅して収穫するのが日課だった。冬には庭で雪だるま作りにも夢中になり、学校に遅刻したこともあった。「2人の兄は自然にほとんど興味を示さなかったのに、不思議ですね」と笑う。

山形大農学部に進学し、96年に長野に戻った。上高地の山小屋や

森の大切さを訴え活動

高山植物パトロールの仕事などを通じて自然への知識を一層深めていた頃、新聞でNPOやまぼうし自然学校(00年設立)を知った。NPOの講座を受講して森林インストラクターの資格を取り、02年からNPOの常勤スタッフに。

今では常勤スタッフ7人、繁忙期に手伝いをする会員が約90人に増えたが、02年当時は常勤が1人だけ。事務作業や資料作り、広い駐車場の雪かきなど、何から何まで一人でごこなした。「明日までに

資料を送ってほしい」との急な依頼に、片道約3時間をかけて運送業者の集荷場に荷物を持ち込んだことも一度や二度ではない。「私人々に伝えることを重視するようになった。」

「旧来、自然学校なんて無いもの。将来は地域の人が、子供や県外者に自然の中の楽しみ方や森林の機能などを教える環境が整い、私たちの活動が不要になるのが本望です」と自然体で活動を支える。

【渡辺諒】

